

みなさんお元気ですか。

2017年5月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



5月2日、メーデーが終り、今週からまた朝稽古をはじめた。朝稽古を初めて丁度2か月が経った。いつも3, 4名は稽古にくる。その内、二人は黒帯をつけている。二人とも1997年、初代JICA青年海外協力隊、合気道指導員が赴任したころに開始した生徒である。その後、中米のある高段者の下で昇段審査を受けた。そして合格と言われた。しかし、認可の免状は貰っていない。その理由は、お金が払えないから。ニカラグアでは、自分は初段だと公言するが、実際には免状は持っていない人がほとんどだ。また、その理由もほぼ同じである。昇段審査で合格と認めた指導者は、当事者に免状を授与することをして初めて完了とする義務があると私は思う。一時的に海外からやってきて、セミナーを開いて試験をして、帰っていく。最後まで生徒の面倒もみない指導者は無責任だと思う。



5月2日、Gloria Conrnavaicaさんの昇級段審査(5級)を実施した。彼女は今年の1月から始めたのだけれども、ほぼ毎回稽古にくる。彼女が来てから道場の雰囲気が変わったように思う。彼女は非常に熱心だ。彼女の言動をみて、ニカラグアの男性は、女性に比べて、いいかげんだなあと改めて思った。5級審査の技名も全部暗記したし、技も正確に覚えていた。ニカラグアの道場は、キッと女性が牽引車となって合気道が広まっていくのではないかと思った。彼女は、弁護士だと言っていた。今は、保険会社に勤めているとのこと。彼女は、今「マネーロンダリング」について、独学していて近々試験を受けると言っていた。何事にも真剣に生きているように感じる。ニカラグアで徐々に人間らしい人格と教養のある人にあつたような気がする。



5月4日、Camila Fonsecaさんの昇級審査（5級）を実施した。彼女も今年の1月から合気道を始めた。彼女は、まだ高校生だけれども運動能力は非常に高い。また、体も非常に軟らかい。入門してすぐに、前・後ろ受け身を簡単にこなした。私が、技について間違いを指摘すると、「はい」と必ず返事して、素直である。技の理解も早い。先月まであまり稽古に来なかったが、今月審査を受けなさいといったら、真剣に稽古を開始した。彼女は、かなり背が高いので、腰の位地も高い。よって少し安定感に欠けるところがある。他の人にも言えることだが、体型からか、腰を低くせよと言ってもなかなか理解できないようだ。前述のGloriaさんとは歳が離れているが、同じ同期としていつまでも続けてくれることを望む。



5月6日、Hector Montoyaさんの昇級審査（2級）を実施した。先週も審査したのだが、不十分だったので、再度挑戦させた。彼は、以前に交通事故の怪我をしたので、正座がまともにできない。よって座り技の技が曖昧で、膝行の動きに無駄が多い。立ち技は、だいたい良い。彼は、この道場（武士道道場）のオーナーでもあり、先輩でもあるので、将来は指導する立場にある。座り技の細かな動きにもっと注意を払って欲しい。後は、私が手本を示しているときに、なぜか下、または横を向いている。何度注意しても分かってないようだ。まじめなのだけど、私には彼の態度が理解できないときがある。今回の審査は合格とした。



5月6日、Byronさんの3級審査を実施した。彼も今回2回目の挑戦となった。この日のために、今週毎日道場に来て、3人で稽古したと言っていた。技の動きはだんだんと良くなってきた。彼は、会うたびに初段を取りたい、と私に言っていた。最初は、頑張っ、と半分疑いながら、返事をしていた。しかし、今回の審査への頑張りようをみて、本当に初段を取ることを目標にしているのだなあ、と私にも伝わってきた。この道場は、いつも3人だけだ。新人も来ない。しかし、この3人は本当に仲よく続けている。一緒に遊んで一緒に励まし合って稽古しているような感じだ。Byronさんは、いつか日本に行くのが夢ですと語っているが、現実になることも嘘ではないかもしれない。彼も2回目の審査で合格とした。



5月10日、Xochitleさんは、2級の審査を受けた。私の道場で、ほぼ毎日稽古にくるのが、二人いる。そのうちの一人がXochitleさんだ。彼女は、合唱団にも入っていて、こちらまじめにやっているとのこと。彼女は40歳を超えているが、若くみえる。彼女は、今回の「受け」がなかなか決まらなかった。毎回きてよく稽古するのに、なぜ「受け」を見つけることができないのだろうか。私には不思議ではない。道場仲間どうしフレンドリーに見えるのだが、性格の不一致なのか、それとも人種間の違いか。いつも稽古している人に、「受け」を頼めばいいのになぜか頼まない。そして、最後になってあまり稽古にこないDaveさんに「受け」をお願いした。私は、「取り」と「受け」がお互いに稽古して、切磋琢磨して、お互いの技を確立して欲しいと願っているのだが、現実には厳しい。なぜか、この国には、人種差別か、経済格差による差別があるように思えてならない。